

第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会

全国社会福祉軟式野球連盟

〒739-0036 広島県東広島市西条町田口391-2 広島新生学園内

助成事業の概要

令和7年10月21日～10月23日にかけて大阪府堺市で第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会を開催する。なお、第38回大会から第42回大会はコロナ禍で予選を含めて全国大会も中止となっており、令和元年に北海道旭川市で行われた第37回全国社会福祉軟式野球大会北海道旭川大会から6年ぶりの開催となる。大会参加チーム資格として、公私の社会福祉施設、社会福祉協議会、民間社会福祉団体等の社会福祉に従事する者で構成されたチームとする。第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会には各ブロック予選を勝ち抜いたチーム（北海道ブロック：1チーム、東北ブロック：1チーム、関東ブロック：2チーム、北陸ブロック：2チーム、中部東海ブロック：1チーム、近畿ブロック：3チーム、中国ブロック：1チーム、四国ブロック：1チーム、九州ブロック：1チーム、沖縄ブロック：1チーム）と前回大会優勝チーム（清水旭山学園）、開催地チーム（みなと寮）の計16チームが戦う。

事業の成果

令和7年10月21日～10月23日に大阪府堺市で6年ぶりに開催された第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会は、社会福祉に携わる職員間の交流を促進し、結束力を高めるという点で大きな成果を上げた。

全国社会福祉軟式野球大会を通じて、日頃は関わりのない全国各地の社会福祉施設や事業所の職

員が交流し、親睦を深める機会となった。また、コロナ禍でしばらくは活動が制限されていた中、職員が目標に向かって練習をする機会を持つことができ、モチベーションの向上に繋がり、日々の業務に加えて野球の練習に取り組むことで、職員の体力維持や健康増進にも貢献をした。チーム一丸となって大会に臨むことで、職場内のコミュニケーションが活性化し、組織全体の結束力を強める結果となった。

6年ぶりに全国社会福祉軟式野球大会が行われたことで、社会福祉の現場における職員の活動や、大会の意義について社会的な関心を喚起する効果があった。

開会式、前夜祭では「仲間」という言葉がいろいろな場面で聞かれた。選手宣誓では、「それぞれの事業所で、今まさに利用者支援に当たってくれている仲間への感謝の気持ちを忘れず、全力でプレーします」、開会式では「大会を通じて野球の楽しさや仲間との絆を感じていただけたのではないか」というあいさつがあった。また、連盟会長を20年以上務めて昨年の9月に亡くなった黒田和幸前全国社会福祉軟式野球連盟会長の口癖も「仲間を大切に」であり、全国に仲間がいることを実感できた。

優勝した清水旭山学園は、コロナ禍での困難を乗り越え、結束力を高めて全国社会福祉軟式野球大会に臨んだことで、3連覇という快挙を達成した。

参加チームが、大会を通じて得られた経験や交流の成果を、今後の業務や組織づくりに生かしていくことが期待される。

種別を超え、地域を超え、仲間との絆を深める……。全国社会福祉軟式野球大会は、値千金の球宴に違いない。

成果の広報・公表

第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会の開催については、コロナ禍で長らく開催されていなかったため、6年ぶりの全国社会福祉軟式野球大会の開催という点が大きな注目を集めた。福祉新聞を発行している福祉新聞社が後援となり、福祉新聞上において4月22日号（大会開催告知）、10月28日号（開会式・前夜祭）、11月4日号（大会結果）に掲載された。福祉新聞は、昭和30年2月に発刊以来、全国をカバーする社会福祉界唯一の専門紙として、広く社会福祉関係者に購読されており、第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会の記事が掲載されたことで広く周知をされ、社会福祉業界における大会の認知度向上に貢献した。

福祉新聞上の掲載に加えて、福祉新聞からの配信記事として開会式の様子や大会結果等、ヤフーニュースにも掲載された。また、各チームがSNS やウェブサイトで積極的に情報を発信し、大会を盛り上げる役割を果たした。

今後の展開

令和7年度においては、6年ぶりに第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会が開催されたが、令和8年度においては、令和8年10月6日～10月8日（9日は予備日）にかけて石川県金沢市で第44回全国社会福祉軟式野球大会石川金沢大会の開催が第43回全国社会福祉軟式野球大会大阪堺大会の幹事会及び代表者会議で決定した。

大会参加チーム資格として、公私の社会福祉施

設、社会福祉協議会、民間社会福祉団体等の社会福祉に従事する者で構成されたチームとする。第44回全国社会福祉軟式野球大会石川金沢大会には各ブロック予選を勝ち抜いたチーム（北海道ブロック：1チーム、東北ブロック：1チーム、関東ブロック：2チーム、北陸ブロック：1チーム、中部東海ブロック：1チーム、近畿ブロック：3チーム、中国ブロック：2チーム、四国ブロック：1チーム、九州ブロック：1チーム、沖縄ブロック：1チーム）と前回大会優勝チーム（清水旭山学園）、開催地チーム（陽風園）の計16チームが戦う。